年４回（４月、７月、10月、１月の各10日）発行

ひゅーまん ねっとわーく

地域と生きる

2019年 10月 発行/第79号

社会福祉法人　北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F　TEL 072-662-8133　FAX 072-662-8155　info@suginokokai.com

よどまつり　ジョブサイトよど/ジェイ・ブランチよど/児童デイサービスセンターan		
左上：西尾　典代さん	右上：井上　光一さん	右下：永井　順也さん

ひゅうまんリレー

h u m a n - r e l a y

「理念」を根幹においた心の繋がり、地域との繋がり

社会福祉法人けやきの郷
障害者相談・地域支援センターけやき
センター長　水野（みずの）　努（つとむ）さんより

社会福祉法人けやきの郷は、今から34年前に、埼玉県川越市に産声をあげました。その当時、義務教育が終わってもどこへも行き場のなかった、重い知的障害をあわせもつ自閉症のわが子らのために、生涯にわたる発達と支援を願って、親御さんが発起人となって設立した法人です。けやきの郷には「どんなに障害が重くても、地域で自立していく」という理念がありますが、この理念の誕生の裏には、法人設立にあたっての反対運動という経験がありました。今よりも、「自閉症」ということばであったり、「自閉症のある方たちの生活」の姿に理解が薄い時代背景もあり、親御さんはわが子の「人として生きる」「人としての尊厳」「障害者の人権」を何よりも大切に思い、その熱い思いからこの理念の成り立ちがあり、現在のけやきの郷の姿へとなりました。

けやきの郷は、入所施設（初雁の家）から始まり、就労継続支援Ａ型事業所（やまびこ製作所）、多機能型事業所（ワークセンターけやき）、グループホーム（潮寮、しらこばとの家、七草の家、あかつき寮）を設立し、利用者の皆様の活動の場、生活の場の充実を目指して取り組んでおります。また、相談支援センター（埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」、障害者相談・地域支援センターけやき）においては、地域の方々に対する支援の場として、活動を展開しております。

ここまでのけやきの郷としての展開の中には、理念という大きな根幹が支えとなっております。「成人としての権利でもある働くことの保障－活動を通じて社会参加を目指す。人として成長をする。」「集団自立－障がいの程度にかかわることなく共に支え合って自立していくこと」という考え方は、日中活動を継続する源となっており、実践にも繋がっております。「やまびこ製作所（就労継続支援Ａ型）」における「パレット製作」においては、利用者同士がともに支え合い、一つのパレットを丁寧に仕上げております。ペアになってのパレット製作、手をとりあっての運搬作業などの取り組みには、利用者同士がともに成長していく姿があります。そして、出荷されたパレットは、社会の流通の中で、資源運搬としての支えになっております。また、「初雁の家（障害者支援施設）」においては、川越市内に「けやきベーカリー」という店舗を運営し、パン販売を行っております。店頭での販売以外にも、訪問販売やイベントへの出店なども積極的

に行い、地域の中での活動を大切にしております。その他にも、「ワークセンターけやき（多機能型事業所）」における「お弁当の製造・販売」、農地を通じての川越市内の子ども会との交流などもあり、このような活動は、今日までの利用者の皆様自身の喜びや、誇り、生きがい、そして、地域との繋がりにもなっているものと思われます。

34年間の取り組みがあっての今日があるわけですが、当法人として、これからのけやきの郷に向っての取り組む課題や計画は、様々あります。一つには、利用者の皆様の高齢化に向けた対応があげられます。法人設立時に、20代であった方々が、平均して50代という年齢ともなり、また、嚥下が難しくなったり、歩行機能の低下など障害の重複化なども見られ始めております。合わせまして、発起人を含め、お亡くなりになられた親御さんも多くなり、家族の形態も変わりつつあります。今後の取り組みとしましては、このような高年齢を迎える方々への支援とその整備として、高齢化を見据えたグループホームの計画に着手しております。また、「生涯にわたる支援」の一環としまして、生活サポートの事業なども活用しながら、余暇支援や送迎サービスの支援も始めております。もう一つには、「地域とともに歩む」という理念にも基づきまして、地域にお住まいの方への支援、生涯を支えるというライフステージを見据えた総合的な支援として、児童期や青年期の方々への支援にも着手していく計画もあります。

けやきの郷が生まれ、今日に至り、これからの未来に繋げていく際に、常に私たちの根幹にあるのは、けやきの郷の理念であります。親御さんの思いを常に心に留め、これからの世代に繋げていくこと、そして、地域とともに歩み続け、障がいのある方々の豊かな生活を支えていくことが私たちの使命と感じております。これからも、皆様の温かいご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

※この度の台風19号で甚大な被害に遭われましたこと、心よりお見舞いを申し上げます。
一日も早い復旧をお祈り申し上げます。
（北摂杉の子会より）

ベーカリー　パン

ベーカリー　店舗

やまびこ製作所　パレット組立

ワークセンターけやき　弁当製造

地域における包括的支援体制の構築をめざして
～地域連携を考えて～

社会福祉法人　ライフサポート協会
障がい児者余暇生活支援センターじらふ
障がい者活動センターオガリ作業所 / 住吉総合福祉センター障がい通所事業部
生活訓練つみき　施設長・センター長　上田治彦（うえだはるひこ）さんより

私は大学生の時、障がいのある方に偏見を持っていました。障がいという事が何なのか、知らないくせに「できない人」と決め付けていました。4回生の時に「障害者スポーツ」という授業を受けて障がいのある方への価値観が180度変化しました。障がいのある方と関わりたい!福祉の道で働きたい!となりました。私自身が「知った」事で変わった経験から、様々な人に福祉を知ってもらいたいので、研修企画、色々な場所でお話させてもらっています。

私が所属する社会福祉法人ライフサポート協会は、1999年に『すべての人が尊敬される社会の実現』を理念にスタートしました。住吉区、住之江区を拠点に障がい事業・高齢事業をしています。地域の声（ニーズ）を聴いて、事業を進めてきました。2003年には、じらふ（児童デイサービス）をスタートし、家族さんの声を聴かせていただき進めました。また企業との連携でラーメン屋（就労継続B型：以下就B）や行政との連携でスーパーマーケット（就B）やユニクロさんとの連携で雑貨作り（就B）など働きたい場所づくり、住みたい、通いたいなど「○○したい」場所を目指して事業を進めています。

2013年5月に情報共有や相談を気軽にできる、質の底上げ、質の向上を目的に住吉・住之江区放課後等デイサービス事業所等連絡会（通称すみすみ）を設立しました。現在38ヶ所の児童と関わる事業所でネットワークを作っております。こども発達支援センターazさんも、加盟してくださり、情報共有や研修で共に学んでいます。また北摂杉の子会さまの実践報告会に参加し、支援のヒントなどいただきました。

支援を楽しみ、実践できるチーム作りを地域のみんなでできたら面白いはず!という想いから『すみすみ研修』という研修を年に20回ほど企画しています。子どもの事業所だけでなく、成人の施設、保護者さん、兄弟さん、障がい者支援をしている企業の方、大学生など参加してくれ一緒に学んでいます。

私の夢は、「福祉」の仕事が子どもの将来就きたい職業ランキング20位までに入る事です。そのために、身近な存在になれるように、色々な人と出会い、つながりたいと思います!

circos －チルコス－ circos.me

代表 竹岡裕子（たけおかゆうこ）さんより

この度はこのような機会をいただき、誠にありがとうございます。

私共の事業内容は、WEBサイト作成・運営、グラフィック系のデザイン印刷物、イベント企画などを展開しております。また、circosチルコスという屋号の由来は、造語ですがサーカスといった意味も入っていて、スタッフそれぞれの特技を活かして楽しく人の役に立つ仕事をしていきたいなと幾人かのチームで動いております。ジョブジョイントおおさか様の事業コンセプトにも少し近いと勝手に親近感がわいています。ジョブジョイントおおさか様との繋がりは、以前から北摂杉の子会様が運営するLaLa-chocolat －ララショコラ－（チョコレートと焼き菓子の専門店）様のポスター作成や、WEBサイトの作成・運営などをさせていただいており、そのご縁から新しくWEBサイトを開設させていただく運びとなりました。

取材や打ち合わせにお伺いさせていただいた時に、事業所を利用されている人達が皆さん率先して「こんにちは」「おはようございます」と挨拶してくださり、雰囲気がいいなと感じました。ララショコラ様（就労継続支援B型）の作業所でもスタッフの方と利用者の方はとても気さくに話していて明るい職場のようですね。

私共の事業のひとつに、【病院でほっとアート】という企画展を大阪市内の病院で5年程継続してさせて頂いております。入院されている方や、ご家族の不安な気持ちや沈みがちな心が少しでも癒されたり、明るくなれるようなアートがあればと、病院の廊下や待合室に作品をそれぞれ展示しています。実は、私が入院した際にご提案させて頂き、ご理解ある院長、広報の方、新進作家さん達のご協力をいただいて実現したものです。昔から日本の病院や、福祉施設などの内装やインテリアがもう少し明るく楽しい感じなら、暗い病状や介護などもする側もされる側も気持ちが違ってくるのではないかなぁと考えていました。

また、今後は障がい者の方のアート作品とのコラボなども考えております。昔に比べて商品化も多くは見受けられるようにはなってきましたが、まだまだアーティストとして仕事になる方は少ないと思われますので何か一緒にできればと。ララショコラ様のチョコレートは、プロのパティシエの方の指導やスタッフの方々のフォローもあってか、オシャレで美味しいお菓子として一般の方に受け入れられ、売れているのはひとつの成功例だと思います。

障がいをもっておられる方が、それぞれの良き個性を活かして働ける場を見つけることはなかなか容易ではないかもしれませんが、ジョブジョイントおおさか様のような事業活動を通して、企業や地域にもっと自然に溶け込んでいける社会になっていければいいですね。

ジョブジョイントおおさか様やララショコラ様といった事業をされている大きな母体である社会福祉法人北摂杉の子会様が今後もひとり一人に寄り添った明るく優しい福祉活動を展開されていかれることを願って、陰ながら応援させていただきたく思います。

circos－チルコスHP：https://circos.me/

韓国清州市の視察報告
～韓国で学んだこと～

ジョブジョイントおおさか　所長
社会福祉士・保育士　星（ほし）　明（あき）　聡（さと）　志（し）

〈はじめに〉

10月上旬、松上理事長、地域生活支援部の平野部長、萩の杜勝部施設長と私の4名で、韓国の清州市にあるCaritasヘウォン障害総合福祉館へ行って来ました。韓国では、たくさんのことを勉強させていただきましたので、ご報告させていただきます。

〈きっかけ〉

韓国の皆さんとの出会いは、今年の2月。毎日新聞の野沢さんがつないでくださり、東京大学先端科学技術研究センターの熊谷先生同行のもと、当法人のグループホーム「レジデンスなさはら」と就労移行支援事業所「ジョブジョイントおおさか」を見学に来てくださいました。

帰り際に「今度は韓国に絶対来て欲しい!」と、何度も何度もお願いされ、今回の視察が実現しました。

〈2日間の視察内容〉

初日は、Caritasヘウォン障害総合福祉館にて、勉強会と意見交換会を行い、表1の内容をテーマに福祉館の方からお話を聞かせてもらいました。

表1：勉強会の内容

韓国の発達障害支援の制度説明
利用者に対する支援サービスの具体的内容
訓練や雇用支援の取り組み
老後、医療的ケア、発達障害の拠点病院
権利擁護や後見人、公共信託
行動障害のある人のケーススタディ

その後、福祉館の館内とグループホームを見学。見学先では、今年の2月に日本で学ばれた自閉症の特性理解、構造化のアイデアなどを早速実践されていて、支援方法や環境の工夫は日本よりもレベルが高く、素晴らしい実践を展開されていました。

2日目は、福祉館とは違う団体が運営する生活支援施設（日本でいう入所施設）を見学。事業概要の説明を受けたあと、施設内を見学させていただき、入所されている障がいのある方ご本人に自室の紹介も受け、生活支援の取り組みを学ばせていただきました。行動面に障がいのある人も多く入所されているようで、本人の意思、選択の機会など、自分らしい暮らしの実現を大切にされていました。

午後からは場所を変えて、平野部長と勝部施設長が法人の理念や事業概要、自閉症の特性理解

と行動障がいのある人への支援について講演。

会場には、100名近い支援者の方が市内からご参加され、講演後もたくさんのご質問をいただきました。

〈視察で学んだこと〉

とても勉強になった2日間でした。まずは、帰国後に日本で学んだことを早速現場で取り入れておられ、その実践もスケジュール提示や自立課題、構造化のアイデア、チョイスボード（選択の機会）など、どれもが素晴らしい内容でした。視覚的にもとてもわかりやすく、個別的な配慮もあり、デザインもおしゃれで、支援レベルの高さを感じました。

もうひとつは、経営理念の大切さを学んだことです。2月の見学から10月までの短期間でどうしてここまで実践できたのかは、見学しながら個人的にはとても疑問に思っていました。ご一緒した福祉館の皆さんとは、2日間で色んな話をさせてもらいましたが、管理者から現場の人まで皆さんとても熱心で、ランチ、懇親会、移動のときなどずーっと私たちに質問されていました。

短期間で学んだことを実践に活かすチカラは、福祉館の経営理念（表2）にあるのだと思います。

表2：ヘウォン障害総合福祉館の経営理念

ミッション	「私たちは障がいのある人の幸せな生活をはたす仲間である」	
コアバリュー	〈個別〉	個別の柔軟化／人権と権利擁護
		利用者ニーズ中心のサービス
	〈選択〉	利用者参加／ライフサイクル別生涯教育
		利用者の意見陳述と参加を保証
		青年期発達障害者の成長と社会活動の促進
	〈機会〉	地域社会の中心活動／ボランティア能力強化
		当事者の生活空間での生活の質の向上
		専門人材の育成
	〈連帯〉	助けられる存在で、地域社会の市民として
		近所の人と一緒に自然の生活志向
ビジョン	「障がいのある人の個々の選択を尊重し、自己主導的な生活を手伝う地域共同体をつくる」	

福祉館の皆さんと話していると、「利用者のため」「地域のため」と口を揃えて仰っておられました。経営理念がきちんと現場にまで浸透していて、そのためにいろいろな努力をされています。それをベースに支援が組み立てられているからこそ、現場の実践力が高いのだと思います。

（行動指針は、毎週ミーティングで確認し合っているようでした。）

経営理念

経営理念に対する個人的感想としては、

- 障がいのある人を中心にしていること
- 利用者中心主義をブラさずに、多面的な展開が明記されていること
- 利用者に対する個別的な配慮を欠かしていないこと
- 利用者の意見、選択の機会など、意思決定支援の考え方を取り入れていること
- 人権と権利擁護を大切にしていること
- 地域との接点を大切にしていること
- 地域の活性化が、障がいのある人の生活の質の向上を持続的に可能にするという視点を持っていること
- そのためにボランティア育成や地域とのつながりを重要視していること

等々、内容の素晴らしさをあげるとキリがありません。

福祉館の皆さんには、たくさんの場所を案内いただき、私たちの法人の経営理念や目指すところがとてもよく似ていて、2日間でとても距離が縮まりました。

今回の素晴らしいご縁をいただいたこと、改めて感謝申し上げます。

〈おわりに〉

毎年、全国の自閉症支援の専門法人と取り組んでいるコラボセミナーですが、来年は大阪で開催を予定しています。その時は、韓国の皆さんもご招待したいと思っています。

平成30年度 業務貢献表彰 優秀賞（法人内表彰制度）

行動指針 ～クレド～ の作成について

ジョブジョイントおおさか　主任・サービス管理責任者
社会福祉士・精神保健福祉士　山本（やまもと）　望（のぞみ）

■ はじめに

平成23年にジョブジョイントおおさか、平成25年にジョブジョイントおおさかたかつきブランチを開設しました。どちらも「自閉症支援×就労支援」をキーワードとして、ASD（自閉スペクトラム症）に特化して企業就労の支援を行っています。

事業所の数が増えたことで、開設当初8名だったスタッフは現在29名になりました。スタッフ1人ひとりが色々な経歴、考え方、価値観を持っています。それぞれの考え方、価値観がありながらも、同じ方向性で支援していく必要性を感じていました。

また、新規ご利用者の方のニーズや特性を見ていると、ご本人の特性・生きづらさは年々複雑さを増していて、支援の難しさを感じることが多くなってきています。ジョブジョイントおおさかとして何を大切に支援するか、どんな価値を提供するか、地域や社会に対してどんな働きかけをするか、等について振り返りが必要と感じていました。

そこで、全てのスタッフが大切にしたいことを共有して日々の支援にあたれるよう、シンプルで浸透しやすいキーワードをまとめた「行動指針（以下、クレド）」を策定することにしました。

■ 実施内容

クレドの作成にあたっては、全スタッフの意見を大切にしたかったので、内部研修を3回実施し、策定しました。

【第1回：平成29年7月19日（水）13:30～15:00】
①北摂杉の子会の法人理念とコアバリューの確認
②正職員全員が自身のプロフィールと支援者として大事にしたいことを発表
③グループワーク
　a.自分が支援者として大事にしていることは？
　b.これからどんな支援者になりたいか？

【第2回：平成29年9月6日（水）13:30～15:00】
①ジョブジョイントおおさかの歩みとこれから
②ジョブコーチとTEACCHについて
③グループワーク
　a.ご利用者・ご家族・企業・地域や社会それぞれにとって最高にハッピーな状態は？
　b.個人的に感じる課題について、どう取り組んでいきたいか？
　C.ジョブジョイントおおさかとして大切にしていきたいことは？

【第3回：平成30年3月28日（水）13:30～15:00】
①これまでの振り返り
②グループワーク
　a.行動指針の大項目を考える
　b.小項目を考える
　c.全体に発表

これらの研修を踏まえて、ジョブジョイントおおさか独自のクレドを策定しました。

〈クレド〉
ご利用者の「こうなりたい」を形にします

- ご利用者の「働きたい」を形にします
- 自分の価値観にとらわれず色々な「ものさし」をもちます
- 希望によりそう支援をします

自閉スペクトラム症支援のパイオニアになります

- 長所を見つけ伸ばしていける支援者になります
- 特性理解を深めるため自己研鑽に努めます
- 「自閉スペクトラム症」「発達障がい」を地域と社会に広めていけるよう発信していきます

上記のクレドが日々の支援に活かせるよう、以下の方法で運用しました。形骸化せず、楽しく振り返りができるよう工夫しました。

〈運用方法〉平成30年4月より実施

①名刺サイズのクレドカードを作成し、スタッフに配布。名札の裏に入れいつでも見られるようにする

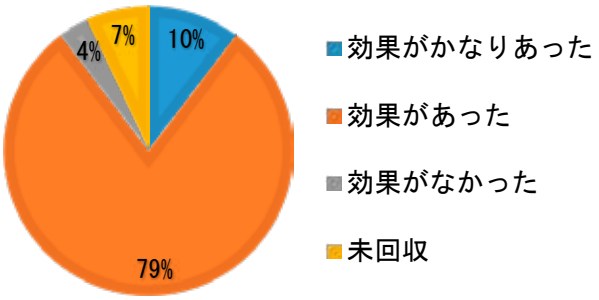
②朝礼か終礼で1日1つのテーマに沿ってスタッフ1名が1分程スピーチ。発表者は当日くじで決める

■ 実施後の効果

効果についてアンケートを取りました。結果は以下の通りです。

Q. 朝礼終礼での確認はクレドを日常的に意識する上で効果があったと思いますか?

(スタッフ29名)



〈スタッフの声〉

- 意識して自分の振る舞いを振り返るようになった
- 他の職員の考え方、思っていることが自分の学びになった。また、自分が悩んでいることは皆さんも同じように悩んでいると知れて少し安心した
- 日頃ご利用者が思っていること、感じていることを理解したいと思うことが増えた
- クレドを掲げるだけでなく、朝礼・終礼で確認することによって、事業所全体に意識として落とし込めたと思う
- はじめは少し抵抗感があったと思うが、「確認する」ということが当たり前になっていき、どのスタッフもお互いを尊重しながら意見を言ったり聞いたりすることができている。また楽しい雰囲気で発表できるのもよい

クレドを通してほぼ全てのスタッフが支援をする中で自身の行動を振り返ったり、気づく場面ができたと感じています。

その一方で、「できていない部分が浮き彫りになり、疲れている時は負担になり辛かった」という意見もありました。できていない面はどうしても出てきてしまうので、お互いを追い詰めず、楽しく取り組む工夫や雰囲気作りが大切であると感じます。

■ 今後の展望

上記の通りほぼ全員のスタッフがクレドを意識することができたと感じています。現在スタッフは29名おり、その中には入職して間もないスタッフや短時間勤務のため朝礼や終礼に参加できないスタッフもいるため、全体に浸透するには時間が必要です。

また、効果が数値で現れたり、具体的な結果が出るにはまだまだ時間はかかりますが、スタッフ1人ひとりの価値観や多様性を大切にしながら、同じ方向性でご利用者1人ひとりを支援できるよう、このクレドを指針として日々の支援に取り組んでいきたいと思います。

平成30年度 業務貢献表彰 優秀賞（法人内表彰制度）

「ご利用者のより豊かな生活を目指して」
～個別シャンプー、リンス、ボディーソープの取り組み～

レジデンスなさはら
支援員　介護福祉士　山田道恵（やまだ みちえ）

■ はじめに

「レジデンスなさはら」は、平成24年4月に開設しましたグループホームです。開設目的は、重度の知的障害の方や、強度行動障害の方の暮らしの場の幅が広がることで『“らしく”いきるために』を基本的価値観とし、支援をさせていただいております。

現在は、当法人の生活介護に通所されているご利用者を中心に20名の皆さんが、3棟の建物【1番館（女性7名）、2番館（男性7名）、3番館(男性6名)】で生活をされています。

■ 従来の状態について

- ご利用者の個々の髪質や体質への意識が職員間で共有化できていなかった。
- 個人でシャンプー、リンス、ボディーソープ(以下、シャンプー等)を持参されている方以外は、業務用の共有シャンプー等を使用していた。

■ 問題点について

- フケが目立つご利用者がおられた。
- 髪のボリュームがない方もおられた。
- 髪がきしんだ状態になってしまうことが多かった。
- 整容面の個別支援が不足しており、なさはらの基本的価値観「地域であたりまえで快適な暮らしをサポートする」ができていなかった。

■ 解決方法について

- 共有のリンスインシャンプー等から1人ひとりの髪質、体質にあった、またご本人が使いたいシャンプー等に変更する。

～解決過程～

① 予算の範囲で取り組むため、シャンプー等に費やせる上限額を平成29年度の予算報告の日用品費を参考に、100ml当たり65円に設定した。

② 上限額内の市販のシャンプー等（エッセンシャル、h&s、ソフトインワン、ツバキ）を購入し、お試しで使用していただく。

③ ご家族に、アンケートを実施し、自宅で使用しているシャンプー等を知ることで、さらに個人に合うシャンプー等に変更する

④ ②③を基に順次、各ご利用者にあったシャンプー等に変更していく。

■ 実施にあたり工夫した点

1人ひとりに合ったシャンプーを揃えたところで、私たち支援者が実施しやすいように下記の2つの工夫を行いました

○どの職員でもわるように一覧表を作成

シャンプーの種類が増えたため、誰がどのシャンプーを使用するのか間違えないように、表を作成した。

○個別シャンプーセットを作成

「自分」のシャンプー、ボディーソープとわかりやすいように個別にセットを作成した。

一番館	シャンプー
Ｓさん	ラックス（スーパーダメージリペア）
Ｍさん	メリット
Ｔさん	h&s
Ｋさん	メリット
Ｋさん	ラックス（補修）
Ｆさん	パンテーン
Ｍさん	設定なし（合うものを探してください）

ご利用者ごとにカゴに分け、可能なご利用者には入浴時に持参していただいた

■ 効果

○頭皮髪質の改善

フケが目立たなくなった、髪にボリュームが出た、髪がきしまなくなった、頭皮の匂いが軽減された

○皮膚科への通院回数の減少

皮膚疾患が減少した等、体調改善がみられ、ご利用者の健康で豊かな生活につながった。

平成29年度22件→平成30年度14件に減少

○職員間でのご利用者の共有

ご利用者の個々の髪質、体質にあったシャンプー等を知り、これまで以上に1人ひとりに意識が向くようになった。普段の支援現場やミーティングにおいても、シャンプー等を変更して変化があるか等、職員同士で共有する機会が増えた。

○ご利用者の豊かな生活のために何ができるかを考えるようになった。

例えば、初めから共用リンスインシャンプーが設定されており、そこから変更することは難しいと思い込んでいたが、個別化できたことで躊躇なく意見を言うことができた。

○様々な「選択」が増える

シャンプー等だけでなく、入浴剤など個々で選択する場面が増え、ご利用者の意思の表出、決定の機会につながた。

○なさはらの基本的価値観

なさはらの基本的価値観の「地域であたりまえで快適な暮らしをサポートする」の第一歩となった。

■ 今後に向けて　～ご利用者の豊かな生活のために～

○日々の生活における選択場面（意思表出しやすい場面）をどんどん支援していく

入浴剤の選択

飲み物の選択

パンorごはん

サラダの選択

ジャムやふりかけの選択

おかずの選択

○ご利用者の意思決定の機会をサポートし、その意思に日々気付くことのできる支援員を目指して

私たちの日常は、毎日が選択の連続です。その選択を私たち支援員が決めてしまうのではなく、ご利用者に決めていただけるよう、まずご利用者個々の特性について把握しなければいけません。

そして、ご利用者のこれまでの生活史の把握、日常生活における意思表示の方法や表情、感情、行動から読みとれる意思について記録を集め、それを読みとったり、推定したりする際に、支援員の価値観で判断するのではなく、根拠を持って行うことが重要だと思っています。

そのためには、自己覚知し、チームでの支援がとても重要になってくると思いますので、日々、実践していきたいと思います。

平成30年度　業務貢献表彰 優秀賞（法人内表彰制度）

コンサルテーションフォローアップ事業の取組み

大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか　支援員
臨床心理士・公認心理師　岡（おか）　あゆみ

1. 経過と課題

大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさかでは平成14年の開設以来、直接支援と並行してコンサルテーション事業も重要視し、事業展開を図ってきました。そして平成24年度より、コンサルテーションで関わった地域の支援者の皆様との連携強化と支援スキル向上を目指して、フォローアップという形で小規模の講座を実施しています。年々参加者数も増え、顔の見える関係づくりができていますが、その反面参加者は経験が浅い支援者からベテラン層の支援者までと幅が広がり、それぞれのキャリアのステージで直面している課題やニーズに差が出てきています。また、参加者の所属先も多岐に渡り、場所も大阪北部から南部までと広域からの参加になっています。それぞれの状況を知ることができるメリットがある一方、北と南で人口規模や社会資源などの差があり、課題を共有しにくいというデメリットも出てきました。

2. 平成30年度の取組み

そこで平成30年度の研修は対象者を2つに分けて実施しました。1つ目の研修は、基本的には実務経験が約1~3年の支援者を対象とした3回連続講座（ルーキーのための3回連続講座です）。2つ目は地域で中心的に発達障がい児者の支援を行っているベテラン層の支援者のニーズに即した研修の開催です（発達障がい児者サポートプロジェクト泉州・南河内版“地域コミュニティーの中心的支援者”のためのオーダーメイド式研修会）。まずはサービスや資源が比較的限られていて、大阪の都心までのの距離が遠いなど共通の悩みを抱えている泉州地域と南河内地域の支援者の方に集まっていただきました。今、何が自分たちの相談スキルを高めるために必要なのか、今後につなげられる対策は何か等を一緒に考えていける会を設けました。今回は、2つ目の研修について詳しくご紹介します。

3. 発達障がい児者サポートプロジェクト泉州・南河内版の概要

参加機関は基幹相談支援センターと市町村の障害福祉担当課で、個別の困難ケースよりも市町村としての発達障がい児者支援の体制や組織の在り方など、自然とマクロな視点での情報共有が目立ちました。例えば、基幹相談支援センターでの相談は、発達障がいが最初の入り口となり相談が始まるケースばかりではありません。生活困窮や引きこもり、親の高齢化問題、他の精神疾患の併発など複雑化したケースが集中する傾向にあり、相談が進む中で発達障がいが基盤にあるかもしれないと気づき、生活相談と並行して発達障がいに関する支援も進めていくことになるそうです。また、知的障がいを伴わない高機能の発達障がいのある方は青年・成人期以降に診断がつく場合も少なくないため、福祉サービスや支援を受ける経験をされていない分、サポート体制を構築していく過程がより難しくなり、他機関へのつなぎ方も慎重を要します。そして他機関へつなぐ際、ご本人のアセスメン

トが必要不可欠になりますが、相談機関という限られた時間と場所でアセスメント機能をしっかり持つという困難さにも直面しています。

そんな中、基幹相談支援センターや障害福祉担当課に求められる役割として、

①複雑化した問題が覆いかぶさっている発達障がいを、どのように気づき適切な支援につなげていくかという市町村全体を巻き込んだシステム作り

②相談が進んだ先にある他機関との連携やつなぐ際に、いかにズレが生じないように共通言語を持ってご本人のことを引き継いでいくかという連携方法の構築と向上

③２次障がいなどの問題が複雑化する前に市町村として取り組むべきことへの提案

この３点がまとめられました。要するにシステム構築への“仕掛けづくり”を常に念頭に置いた業務の進め方が求められていると言えます。そしてこれは、アクトおおさかのミッションとも共通します。

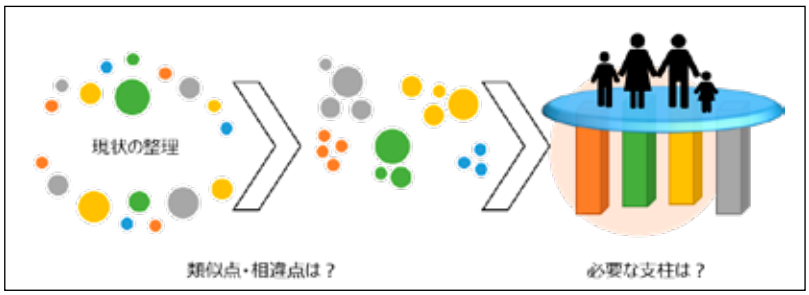
既に上記の課題と求められる役割の中で実施されている取り組みもありました。例えば、「我が事・丸ごと」の観点から、民生委員やCSW（コミュニティ・ソーシャルワーカー）を巻き込んで地域を見守る体制を作り、そこから上がってきた事例を分析し相談の傾向を探ることで、支援体制構築の参考にしている市町村があります。人材育成という観点からは、新人とベテランを分けた研修や、社会資源が少ない中で支援者として何ができるかを考えてもらう様な研修、発達障がい者地域支援マネージャー事業の活用など、支援者１人ひとりの意識改革につながる様な意匠を凝らした研修を実施されていました。

事情が違うため他の市町村で成功している取り組みをそのまま自分たちの地域で活用することは難しいですが、成功事例を参考にし、自分たちの地域性に合わせて部分的に活用することで、より良い支援体制の構築につながると考えられます。課題を共有するのみでなく、うまく機能している府内外の取組みも積極的に見聞きできる機会をこれからも作っていきたいと考えています。

4. おわりに

参加者のニーズに沿った実地研修を催すことを目指しましたが、今回はそこまでには至りませんでした。しかし、当センター主体の研修会に参加して頂くだけでは分からない地域事情が伺えたことは１つの成果だと言えます。また、身近な地域の似た条件下で同じような役割を担っている支援者同士が情報交換をしたり相談したりできる機会はあまりないため、まずはそのきっかけ作りができたことも成果の１つです。今回の参加者は所属先の役割から、今後他の支援者のスーパーバイザーとしても地域を引っ張っていくことが求められると考えられます。そういった意味で、地域の中心的支援者の人材育成の一歩を踏み出せたことも、今回の取組みが評価できる点です。

以下のイメージ図の様に、発達障がい児者の支援体制を市町村で充実させるためには、ご本人・ご家族を支える複数の支柱が必要になります。今回の取組みでは地域の一部の現状の整理ができ、一部分の類似点も見出すことができました。それが実際にご本人・ご家族を支えられる柱になるためには、国民全体の意識改革を含め各市町村・各支援機関の協力が必須になります。更なる支援体制の充実に向けて、今後もアクトおおさか職員一同邁進していきたいと考えています。



平成30年度 業務貢献表彰 優秀賞（法人内表彰制度）

事務作業の効率化

ジェイ・ブランチよど
事務員 山本裕子（やまもとひろこ）

■ はじめに

ジェイ・ブランチよどは、大阪市淀川区に平成28年8月開設の就労継続支援B型の事業所です。令和元年9月現在24名の方が利用されています。そのうち男性が約7割で平均年齢は31.6歳です。施設内では下請けやパソコンの入力作業、施設外では、職員が同行してマンションなどの清掃や病院のカルテなどのシュレッダー作業、厨房の洗い場、紙工会社での箱折、病院への訪問販売の仕事をしておられます。近くにある生活介護の事業所のジョブサイトよどのコロッケ事業の店舗での清掃や接客をする方もおられます。昨年度の平均工賃（月額）は1万円を超えました。余暇活動として、夏と冬には慰労会、秋には日帰り旅行があります。土曜開所の日にはカラオケや外食などに行かれることもあります。

■ 事務作業の課題と解決

ジェイ・ブランチよどに限ったことではありませんが、支援員の多くは、日中はご利用者の対応、ご利用者が帰られた後は会議や翌日の準備、下請製品の検品や納品などで、事務的な仕事をする時間があまりありません。結果的に時間外労働が増えたり人為的なミスが多いという課題がありました。

施設外の作業では、職員配置を満たしている、運営規定に位置付けられている、個別支援計画に含めている、作業内容について企業と契約している、月2回以上訓練目標の達成評価を行っているなどの要件を満たし、事業所以外の場所で支援を行った場合に、毎月の給付費に加え、「施設外就労加算」を施設外で支援を受けたご利用者の人数分を算定することができます。ジェイ・ブランチよどは現在4つの企業と契約し、施設外作業をされている15名の方に加算を算定しています。

「施設外就労加算」を算定したときは、ご利用者がお住まいの市町村に「施設外就労実施報告書」という書類の提出が必要なため、以前は手入力で毎月十数枚作成していました。施設外作業されている方の何名かは、複数の作業場に日替わりや週替わりで行っておられ、就労先も重複しているため、作成には時間がかかり、ミスも多かったので、何度も作成し直していました。また作成だけでなく、そのチェックにも数名の職員の手間と時間がかかっていました。

そこで、人為的なミスを減らすため、報告書に手入力するのをやめ、ご利用者ごとの作成に変更しました。毎月作成している「実績記録票」のエクセルのデータを加工し、直接入力をできるだけ減らした結果、作成の時間が短縮され、報告書の入力ミスやチェックの時間も減らすことができました。

同様に、作成に時間がかかっていたのが、月間予定表でした。

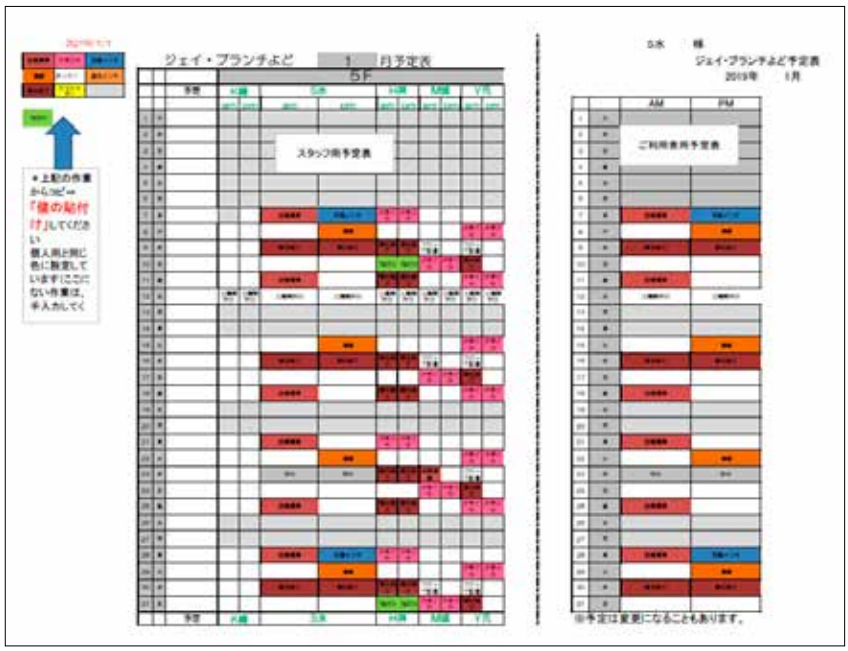
毎月エクセルでご利用者と職員全員の予定がわかる職員用のものと、ご利用者に渡す個別のものを別々に作成していましたが、変更があるとそれぞれに修正が必要なため、二度手間になり、修正がもれることもありました。

これを職員用の予定表に入力した内容が、ご利用者用に反映されるよう作り直した結果、修正も職員用だけでよくなり、報告書と同様、作成の時間を減らすことができました。

このように毎月の業務に必要な書類の作成手順を見直した結果、作成やチェックにかける時間が短縮され、毎月の残業時間を減らすことができたり、他の業務に充てたりすることができています。

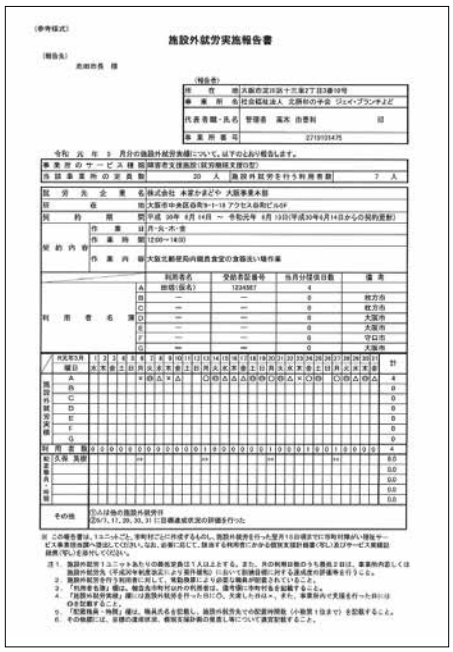
■ 今後に向けて

事務の仕事は裏方ですが、個人情報を扱うなど責任も重く、提出期限のあるものもあります。支援員の協力なしでできないものもあります。これからもパソコンなどのスキルを向上し、自分自身の業務の効率化だけでなく、事業所全体の事務的な業務の効率化を考え、職員の負担が軽減されるよう努めたいと思います。



予定表

報告書作成マニュアル



施設外就労実施報告書

施設外：津田

施設外：かまどや

杉の子いいね!

レッツ クリエイティブ アート!

当法人のご利用者には、様々な特技をお持ちの方や表現活動（絵画・詞・陶芸等）を行っている方がたくさんおられます。このコーナーでは、そういった活動を紹介しています。たくさんの読者に「いいね!」「共感した!」という想いを届けたいと考えています。

児童発達支援部

●グループ活動制作

夏の海辺

「グループ活動で制作に取り組みました。役割分担をして道具を貸し借りしながら、各自でパーツを作り、組み合わせて１つの大きな作品が完成しました。」

レジンづくり

クオリティの高いとても鮮やかな作品です。

●マグフォーマー、ラキュー

ダイヤモンド

ロケット

ラキュー（車）

写真を見ながら超大作が出来上がりました!

ジョブジョイントおおさか

●装飾プロジェクト

装飾プロジェクトとして、ご利用者の方に休憩室の壁を飾り付けをお願いしています。スタッフと相談しながら、春、夏、秋、冬と季節に合わせた作品を作ってもらっています。作業で疲れた時も、ほっこり休憩できるスペースです。

●プレゼンチャレンジ

自分の好きなテーマを決めて、資料を作りみんなの前でプレゼンをするプログラムです。
「自分の好きなことを発信できた・共感してもらえた」「他の人の好きなことを知ることができた」などの感想も多く、皆さん楽しみながら参加されています。
資料作成も「わかりやすく伝える」ということを考えながら取り組まれています。
自分の言葉で伝えられたという経験が皆さんの自信に繋がっていけばと思っています。